

楽しく学ぼう！連結会計3 連結会計の仕組み①（剰余金の配当がない場合）。

【連結会計の仕組みについて】

今回は、いよいよ連結会計の仕組みについてです。分量は少ないので繰り返しご確認下さい。

【例題】『楽しく学ぼう！連結会計2』の内容に基づいています。

P社は平成X1年12月31日にS社の発行済議決権付株式総数の80%を420,000円で取得した。

連結財務諸表作成上の留意事項

1. 平成X1年12月31日(支配獲得日)における投資と資本の相殺消去により発生したのれんは、100,000円であった。なお、支配獲得日の翌年度から10年間にわたり每期均等償却を行う。
2. 平成X1年12月31日～平成X3年12月31日にP社のS社株式の保有状況に変動はなかった。
3. 平成X1年12月31日～平成X3年12月31日にS社の払込資本に変動はなかった。
4. 資料として与えられている事項以外は考慮しないこと。

平成X2年度S社個別貸借対照表

S社貸借対照表				S社貸借対照表			
平成X2年12月31日				平成X2年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	資	産	950,000	諸	負	債	500,000
				資	本	金	300,000
				利	益	剰	余
				金			150,000
			950,000				950,000

平成X3年度S社個別損益計算書

S社損益計算書				S社損益計算書			
自平成X3年1月1日				自平成X3年1月1日			
至平成X3年12月31日				至平成X3年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	費	用	150,000	諸	収	益	200,000
当	期	純	利				
益			50,000				
			200,000				200,000

平成X3年度S社個別貸借対照表

S社貸借対照表				S社貸借対照表			
平成X3年12月31日				平成X3年12月31日			
(単位:円)				(単位:円)			
諸	資	産	1,000,000	諸	負	債	500,000
				資	本	金	300,000
				利	益	剰	余
				金			200,000
			1,000,000				1,000,000

※ 今回の例題は、その趣旨（仕訳一巡の確認）からP社財務諸表と解答欄を省いています。

【のれんの推移】

支配獲得日	連結第1年度		連結第2年度	
HX1. 12/31		HX2. 12/31		HX3. 12/31
100,000円	▲10,000円	90,000円	▲10,000円	80,000円

【仕訳一巡(連結第2年度期首～連結第3年度期首)】連結会計の目的である事業投資の成果の計算や親会社持分の把握を連結仕訳だけで完結させる為、本来の連結手続きではない、S社当期純利益の個別消去・連結振替を追加しています。この趣旨から各項目の内、個別同士、連結同士は相殺し、個別と連結の相殺は行いません。なお、青枠が親会社持分です。

◆ 連結第2年度開始仕訳 (ストック・アプローチ) (単位：円)

資本金当期首残高	300,000	子会社株式	420,000
利益剰余金当期首残高	150,000	利益剰余金当期首残高	30,000
のれん	90,000	非支配株主持分当期首残高	90,000

◆ 当期純利益の消去・振替 (本来の連結手続きではありません)

当期純利益 個別	50,000	当期純利益 連結	50,000
-------------	--------	-------------	--------

◆ 当期純利益の非支配株主への按分：50,000×20%=10,000

非支配株主に帰属する当期純利益	10,000	非支配株主持分当期変動額	10,000
-----------------	--------	--------------	--------

◆ のれんの償却

のれん償却額	10,000	のれん	10,000
--------	--------	-----	--------

◆ 連結第3年度開始仕訳 (ストック・アプローチ=フロー・アプローチ)

資本金当期首残高	300,000	子会社株式	420,000
利益剰余金当期首残高	200,000	利益剰余金当期首残高	60,000
のれん	80,000	非支配株主持分当期首残高	100,000

※ 試験で開始仕訳が問われた場合、(借方)と(貸方)の利益剰余金当期首残高を相殺して下さい。

【まとめ】 ◆ 当期純利益の消去・振替 ～ ◆ のれんの償却

当期純利益 ※ 50,000	親会社株主に帰属する当期純利益 ※ 30,000
※第3年度に利益剰余金当期首残高として引継。	非支配株主持分当期変動額 10,000
	のれん 10,000

【連結会計のストーリー】

まず、開始仕訳ではS社純資産(本問ではS社資本)を消去後に親会社持分と非支配株主持分に按分・振替を行っています。一方、【まとめ】ではS社当期純利益を消去後に親会社持分と非支配株主持分に按分・振替を行っています。このように純資産・純利益を親会社持分と非支配株主持分に按分・振替しつつ投資の成果を把握する、これが連結会計の狙いであり、一連の仕訳のストーリーです。

【財務諸表一巡】下のS社財務諸表をP社財務諸表と合算すれば連結財務諸表は完成しますが、あくまでも事業投資の成果を把握するのが目的なので、S社の事業内容を反映する財務諸表を元の一連の連結手続きを行う訳です。なお、子会社株式は合算により相殺消去されます。

平成 X2 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表				平成 X2 年 12 月 31 日				(単位:円)
諸	資	産	950,000	諸	負	債	500,000	
の	れ	ん	90,000	子	会	社	株	式
/				利	益	剰	余	金
						30,000		
/				非	支	配	株	主
					持	分	90,000	
			1,040,000				1,040,000	

平成 X3 年度修正後 S 社損益計算書

S 社 損 益 計 算 書				自平成 X3 年 1 月 1 日				至平成 X3 年 12 月 31 日				(単位:円)
諸	費	用	150,000	諸	収	益	200,000					
の	れ	ん	償	/								
却	額	10,000										
非支配株主に帰属する当期純利益								10,000				
親会社株主に帰属する当期純利益								30,000				
								200,000				
								200,000				

平成 X3 年度修正後 S 社貸借対照表

S 社 貸 借 対 照 表				平成 X3 年 12 月 31 日				(単位:円)
諸	資	産	1,000,000	諸	負	債	500,000	
の	れ	ん	80,000	子	会	社	株	式
/				利	益	剰	余	金
						60,000		
/				非	支	配	株	主
					持	分	100,000	
			1,080,000				1,080,000	

【慣れて来たら】

以上、p.2の仕訳をしっかりとこなして頂ければ当面は問題ありません。ですが、沢山の財務諸表の金額が問われている問題に開始仕訳から取組むと時間不足！という事態も十分あり得ます。その際には、問われている期首の金額だけ逆算する方法が有効です（参照：上記財務諸表）。

利益剰余金当期首残高：30,000円＝

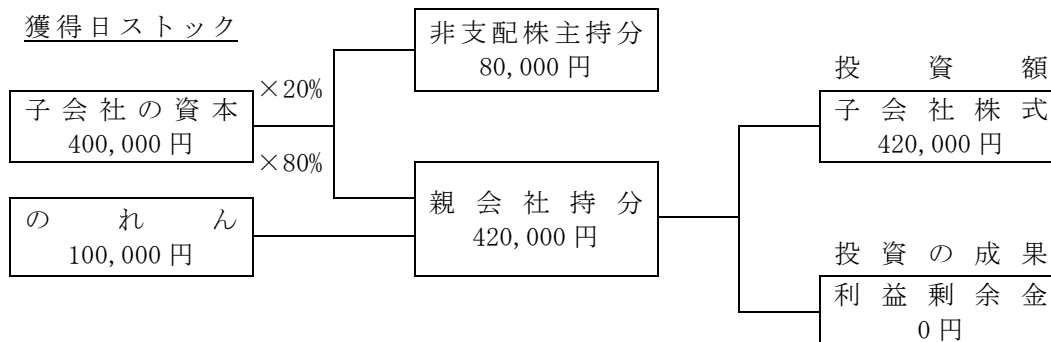
利益剰余金当期末残高：60,000円－親会社株主に帰属する当期純利益：30,000円

非支配株主持分当期首残高：90,000円＝

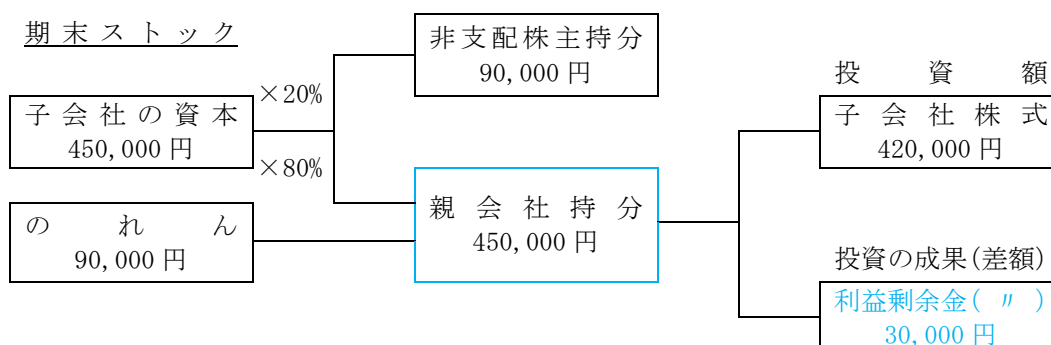
非支配株主持分当期末残高：100,000円－非支配株主に帰属する当期純利益：10,000円

【参考：枝分かれ図】※ のれんの償却が、親会社持分と利益剰余金を減少させている点に注意。

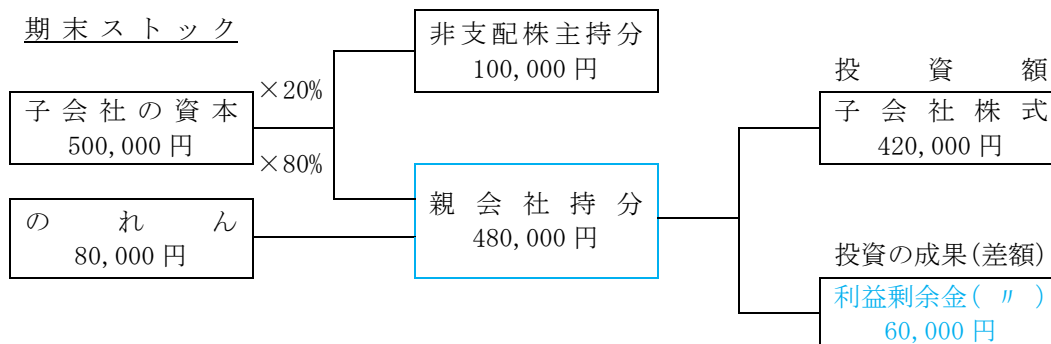
◆ HX1. 12/31（支配獲得日：『楽しく学ぼう！連結会計2』p.4より）



◆ HX2. 12/31（連結第1年度末）



◆ HX3. 12/31（連結第2年度末）



それでは、今回の内容はここまでです。See You Again !